

当行（単体ベース）の営業の概況

2020年9月中間期の営業の概況（2020年4月1日～2020年9月30日）

当中間期のわが国経済は、企業の生産活動や輸出、さらに個人消費などが新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け大きく落ち込みました。しかし、外需の持ち直しの動きや、政府や自治体が経済活動再開に向け動き始めたことから、景気は非常にゆるやかではあるものの持ち直しの動きを見せつつあります。

地元香川県におきましては、個人消費は持ち直しの動きを見せ始めていますが、企業の生産活動は依然として弱く、景気は厳しい状況が続いています。

当行では、新型コロナウイルス感染症の拡大が地域社会・経済に与える影響への対応を優先課題とし、職員の感染防止に努めるとともに、お客さまの資金繰り支援など、金融仲介機能の発揮に取り組みました。

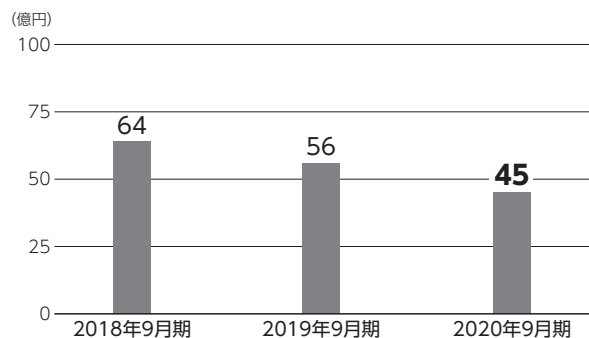
こうしたなかで、当中間期の業績は次のとおりとなりました。

コア業務純益の推移

コア業務純益は、経費の削減に努めましたが、その他業務利益の減少などにより、前年同期比10億53百万円減少して45億83百万円となりました。

*コア業務純益とは

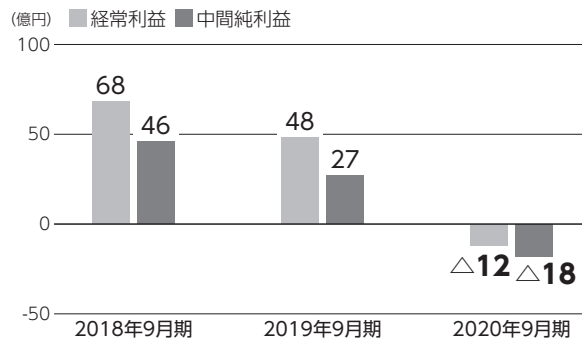
コア業務純益 = コア業務粗利益（資金利益 + 受取手数料など） - 経費
銀行の本来業務からの利益を表す指標。



経常利益・中間純利益の推移

経常利益は、不良債権処理費用は減少しましたが、株式等償却の計上により、前年同期比61億30百万円減少して12億90百万円の損失となりました。

また、中間純利益は、前年同期比46億46百万円減少して18億84百万円の損失となりました。



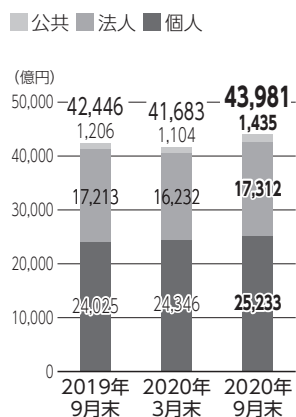
総預金等・貸出金の残高推移

●総預金等

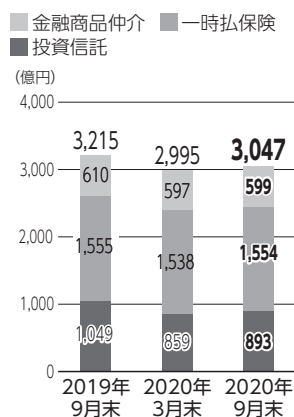
当中間期末の総預金残高は、個人、法人及び公共預金の全てが増加したことにより、前期末比2,297億円増加して4兆3,981億円となりました。

また、預り資産残高は、投資信託、一時払保険及び金融商品仲介がいずれも増加した結果、前期末比51億円増加して3,047億円となりました。

総預金（預金 + 譲渡性預金）



預り資産

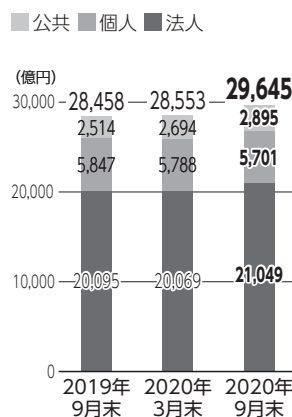


●貸出金

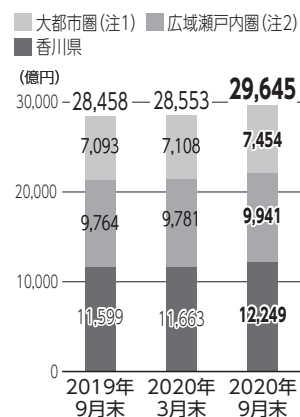
当中間期末の貸出金残高は、個人向け貸出金は減少しましたが、法人向け及び公共向け貸出金が増加したことにより、前期末比1,092億円増加して2兆9,645億円となりました。

また、地域別では、香川県、広域瀬戸内圏及び大都市圏の全ての地域で残高が増加しました。

貸出金（貸出先別）



貸出金（地域別）



(注) 1.大都市圏：東京、大阪、愛知
2.広域瀬戸内圏：愛媛、徳島、高知、岡山、広島、兵庫、福岡